

# 添蚯蚓遍路道の魅力再発見

## おおのみ 自然愛好会

### 新しい添え蚯蚓を歩く

5月30日(土)12時50分発、会員26名と広報編集委員松岡誠一さんとで、自然愛好会としては4回目の添蚯蚓歩きでした。今回は七子峠から長沢へ下るルートで、入り口からは平坦な落葉道を歩くこと50分で海月庵跡へ着きました。弘法大師がここで目を眺めたのが……と苔むした遍路墓やコナラの大木に往時が偲べれます。展望が開けた横道では、眼下はるか双名島が望め、ここで喉を潤し、尾根を下りはじめました。「よう若いお遍路さんに会うのに、今日はちつとも登って来る人がおらんねえ。」などと話しながらの下り道。町内草刈りボランティアの人々の名札が木の枝につるされていました。本当にきれいに整備されていて気持ちよく歩けました。岡山、広島、愛知のお遍路さんの名札も見かけました。国道を通る車の音を聞きながらの下り道は、「台風の際は、大水の出る谷となるのかな」と想像するような道でした。

高速道路工事の行われている周辺は風景が一変しており、ここから新道で、東屋が建っています。大野見から下りて来た旧道が左に見えております。再び、喉を潤し、225の急な階段を下りますが、ひざの痛い人にはとてもこたえる急勾配の階段でした。高速道の下を抜けて、長沢の登り口へ到着したのが、15時10分。東屋

「酔芙蓉」で小休止、バスでの帰り道となりました。弘法大師の修行を偲び、俳人山頭火も歩いたという添蚯蚓歩きは、木々の小鳥たちのさえずりと体に染み入る大自然の中で、確かに何かを自分にも問いかけてみたくなる一歩一歩でした。

おおのみ自然愛好会  
会長 田上庄吉

添<sup>そえ</sup>蚯<sup>みずず</sup>蚓遍路道は、中世から、幡多路への通り道であった往還(国道)で、およそ5kmの道のりです。高速度道路工事のため全面通行止めとなっていました。昨年再開通。近年の健康ブームや歴史ブームの中で、その歴史的・文化的価値や、観光資源としての役割を再評価されています。今回は町内外の2団体、「おおのみ自然愛好会」と高知市の「龍馬研究会」のレポートを通して、添蚯蚓の魅力をも2つの異なる切り口でお伝えします。

